

中曾根総理大臣主催昼食会でのあいさつ

(一九八三年十一月十日)

日本とアメリカは八千キロの海で隔てられ、地理、歴史、文化を異にするにもかかわらず、同じ価値観を共有しています。

両国は個人の尊厳を基盤とする民主主義国です。両国は、すべての人の意見は傾聴されるべきであるとの信念から、国民のすべてに、政治への発言権を与えていました。またともに、すべての人は一定の奪うことのできない権利を持つていると信じており、したがって、これらの権利を法に明記しています。アメリカの教育者ロバート・ハッチングスは、こう書いています。「民主主義は……人間の尊厳——一部の人たち、金持ち、教育のある人たちの尊厳ではなく……すべての人の尊厳に基礎を置いている唯一の政治形態である」と。

民主的な自由は、国を高くするだけでなく、ダイナミックなものにすることを、私たちはともに知っています。民主主義国では個人の活動力と能力を十分に發揮しつつ、いろいろ実験し、知識を交換し、前進を重ねています。

ここ数十年間だけをとつてみましても、自由な人びとのおかげで、全人類の健康と生活の水準は著しく向上しました。民主主義諸国で化学肥料、農業機械、土地利用などの革新が進んだおかげで、世界中の農業生産高は増大しました。民主主義諸国は、ペニシリンの発見から、種々のビタミンの発見まで、医学の進歩に寄与し、その結果、地球上のあらゆる人びとは以前より長生きするようになつたのです。また、民主主義諸国におけるエレクトロニクスの飛躍的な発達は、世界中の国を結ぶ電気通信のネットワークを生み出しました。

た。申すまでもなく、日本は、エレクトロニクスの分野で先頭に立ってきた国のです。東京のある店に行きますと、ステレオ・ヘッドホーンが二百五種類、テレビが百種類も置いてある、と伺っています。

今日、先端技術革命は、一世紀前の産業革命よりも、もつと根本的に地球上の生活を変える可能性を秘めていますが、その革命の先頭に立っているのは、民主主義諸国、とりわけ日本とアメリカです。この革命は、分子を調べる電子顕微鏡から、果てしない宇宙の闇を探査する人工衛星にいたる、さまざまな分野で起っています。この革命はまた、さまざまな産業の能率を飛躍的に向上させ、世界のすぐれた文学、映画、音楽を家庭で鑑賞できるようにしました。さらに、目の不自由な人びとの目となり、身体障害者の足となるような医学的一大進歩をもたらしています。

これとは対照的に、國家統制経済は、ついてこれない状態です。分割されるまでの朝鮮半島では、工業の中心は北にありました。現在では、韓国の生産が三対一で北朝鮮をしのいでいます。また、ヨーロッパでは、西ドイツの一人あたりの所得は、東ドイツの二倍以上になっています。今日の世界での眞の分裂は、東西間にではなく、進歩と停滞、自由と抑圧、希望と絶望の間にあります。

日本の卓越した指導者であられた尾崎行雄は、長い生涯を振り返り、「一国の幸福を増やすためには……全世界の幸福を増やさなければならぬ」といつています。日米両国は、この考えに同感であり、私たちもともに、世界の幸福は自由に依存していることを知っています。

総理閣下、あなたは人間の自由を守り推進するために、たゆまぬ努力を続け、長い間、さまざまな要職にあって日本のために尽くしてこられました。あなたは一九四七年に初めて国会の議席を得られ、一九五九年以來、五つの閣僚ポストにつき、そして現在では、お国の指導者であられます。あなたのご努力に感謝の念をこめ、アメリカ国民を代表してあなたに敬意を表します。